
調査速報

道西日本海スケトウダラ資源調査結果

2007年 12月 16日

北海道立函館水産試験場 (0138-57-5998)

○2007年12月7日～13日に、調査船金星丸を用いて道西日本海海域(奥尻島以南)のスケトウダラ資源調査を実施したので、結果をお知らせします。

調査結果速報は、下記の函館水試ホームページからご覧になれます。

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/hakodate/>

- 魚群は沿岸域を中心に分布し、沖合域では少なかった
- 魚群の分布水深はおよそ 100～380mで、濃群は 200m以浅に見られた(夜間)
- 計量魚探による沿岸域の魚群反応量は、前年同期を上回った
- 乙部沖、上ノ国沖の水温は前年並みであったが、江差沖では前年よりも高かった

● 魚群の分布

・ 水平分布(図1)

魚群の分布は、スケトウダラ延縄漁場である檜山沿岸域に多く見られ、沖合域の奥尻堆(奥尻島の南側)ではほとんど分布が見られませんでした。

一方、奥尻島の東側、松前小島周辺、江良沖合では、沿岸域に比べ分布は少ないもののまとまった魚群反応が見られました。これらは、今後延縄漁場域へ加入してくると思われる。

・ 鉛直分布(図2, 3)

魚群の分布は、①(42° 02. 5N線)では水深130～380m, ②(41° 57. 5N線)では水深120～380m, ③(41° 52. 5N線)では水深140～380m, ④(41° 47. 5N線)では水深100～380mに見られました。また、濃群(分布の中心)は200mより浅い水深帯に見られました。

● 魚群反応量(図1)

檜山沿岸域(スケトウダラ延縄漁場周辺)の魚群反応量は前年同期を上回りました。

江差沖の反応量は前年と同程度でしたが、爾志海区(熊石沖から乙部沖)や上ノ国沖では前年を上回る反応が見られました。

● 水温環境(図4)

スケトウダラ延縄漁場周辺の乙部沖、江差沖、上ノ国沖で水温の観測を行いました。漁期前(10月)に調査した時は、3海域とも前年(2006年)より水温が高くなっていましたが、今回は乙部沖、上ノ国沖では前年並みとなっていました。一方、江差沖については前年同期に比べ水温が高めとなっていました。

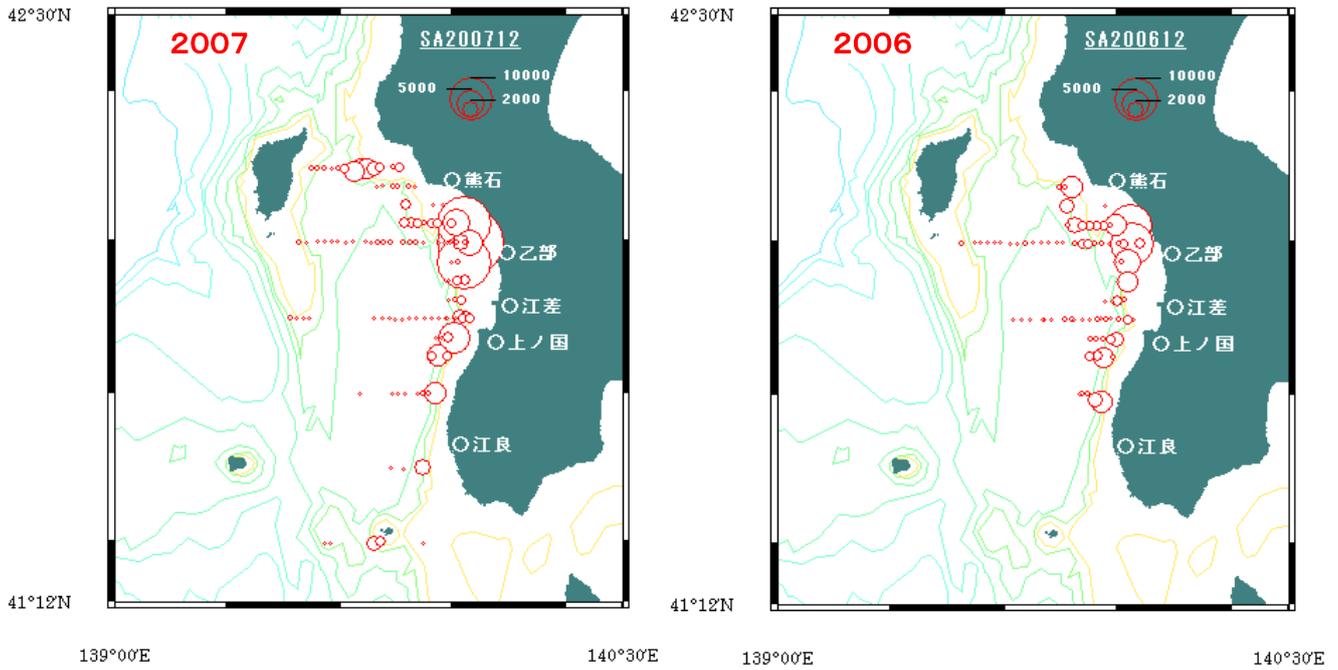


図1 魚群の水平分布（左：2007年12月，右：2006年12月）
 ○の大きさが魚群反応量（ S_A ）を示す

*2006年は奥尻島の東側，松前小島周辺，江良沖では調査を実施しなかったため，2007年よりも調査範囲が狭いことに注意してください

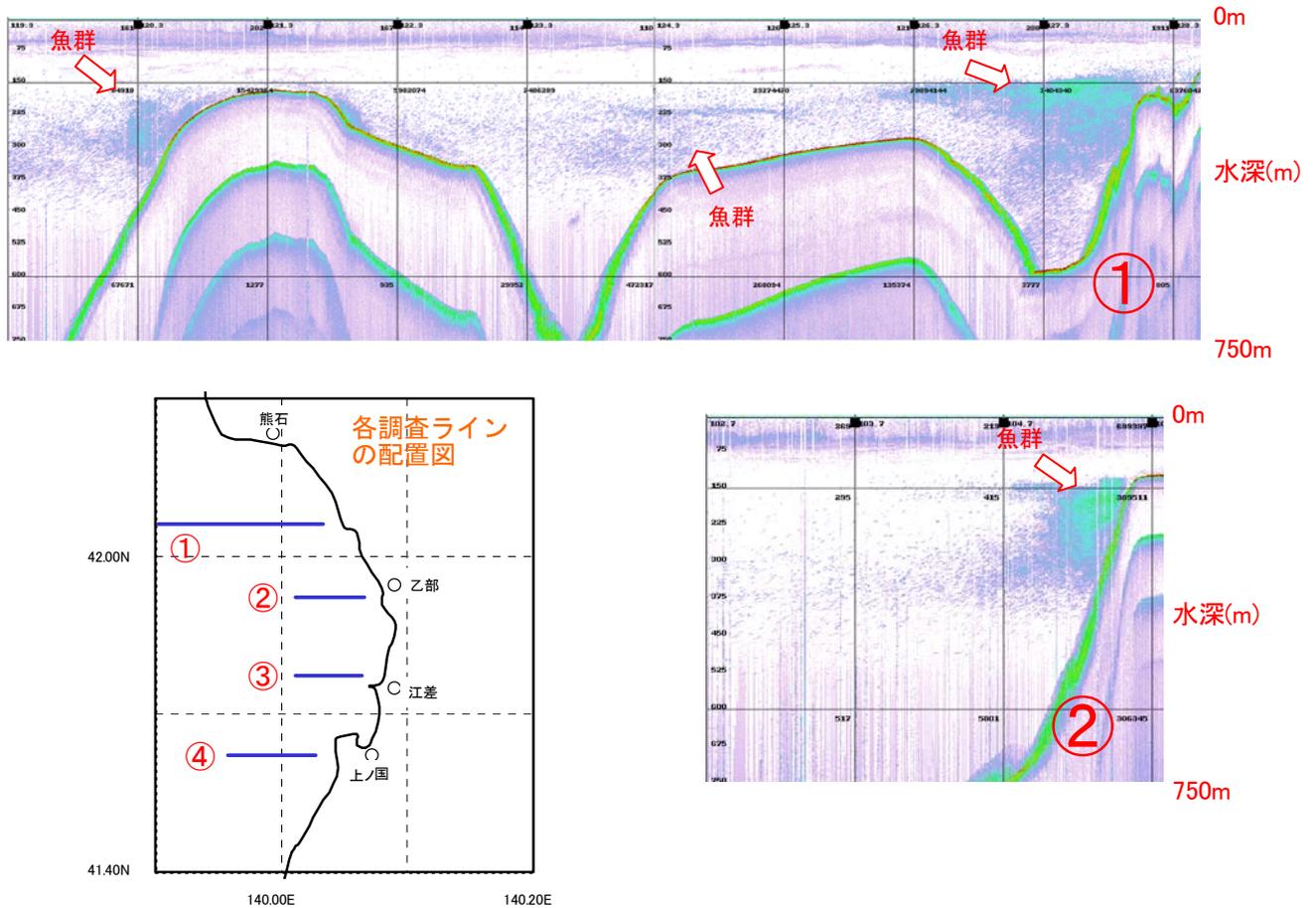


図2 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布（夜間に調査を実施）

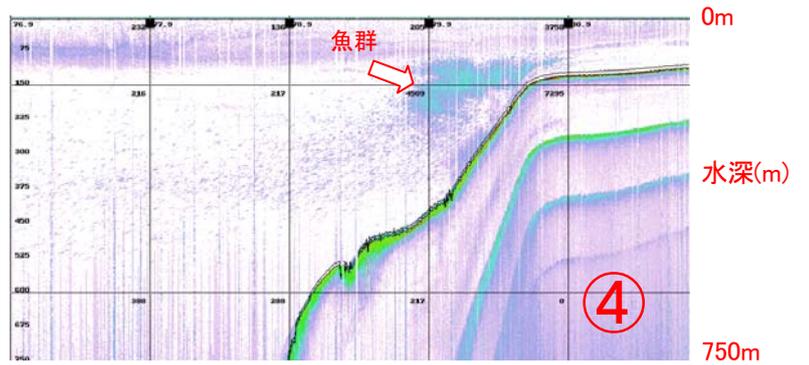
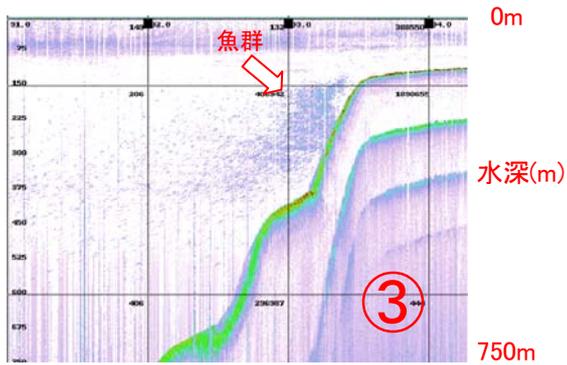


図3 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布(夜間に実施)
調査ラインの配置は図2を参照

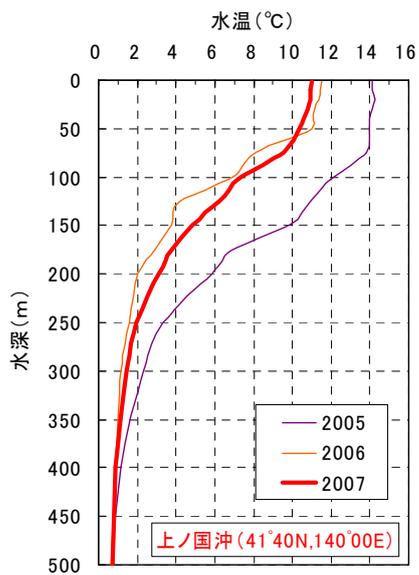
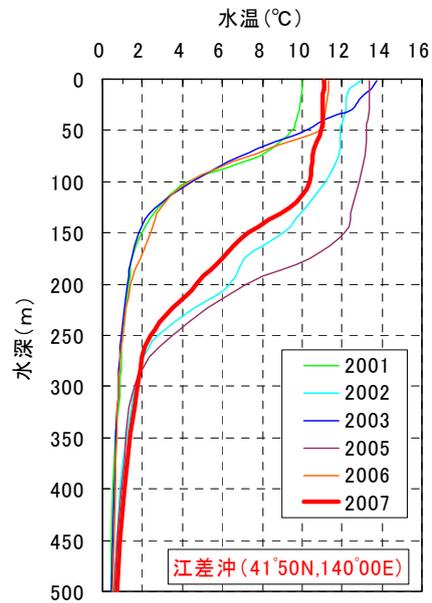
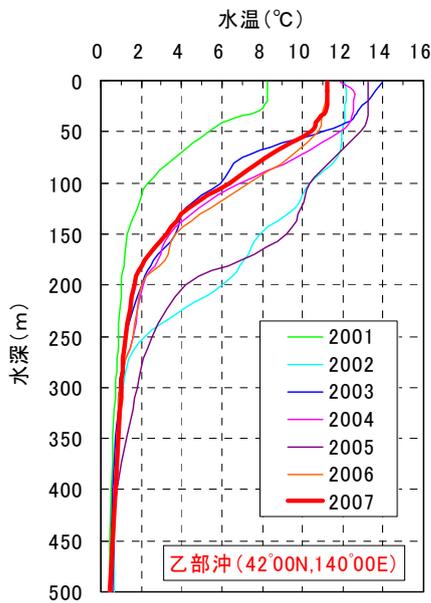


図4 乙部沖(左上), 江差沖(右上),
上ノ国沖(下)の水温分布